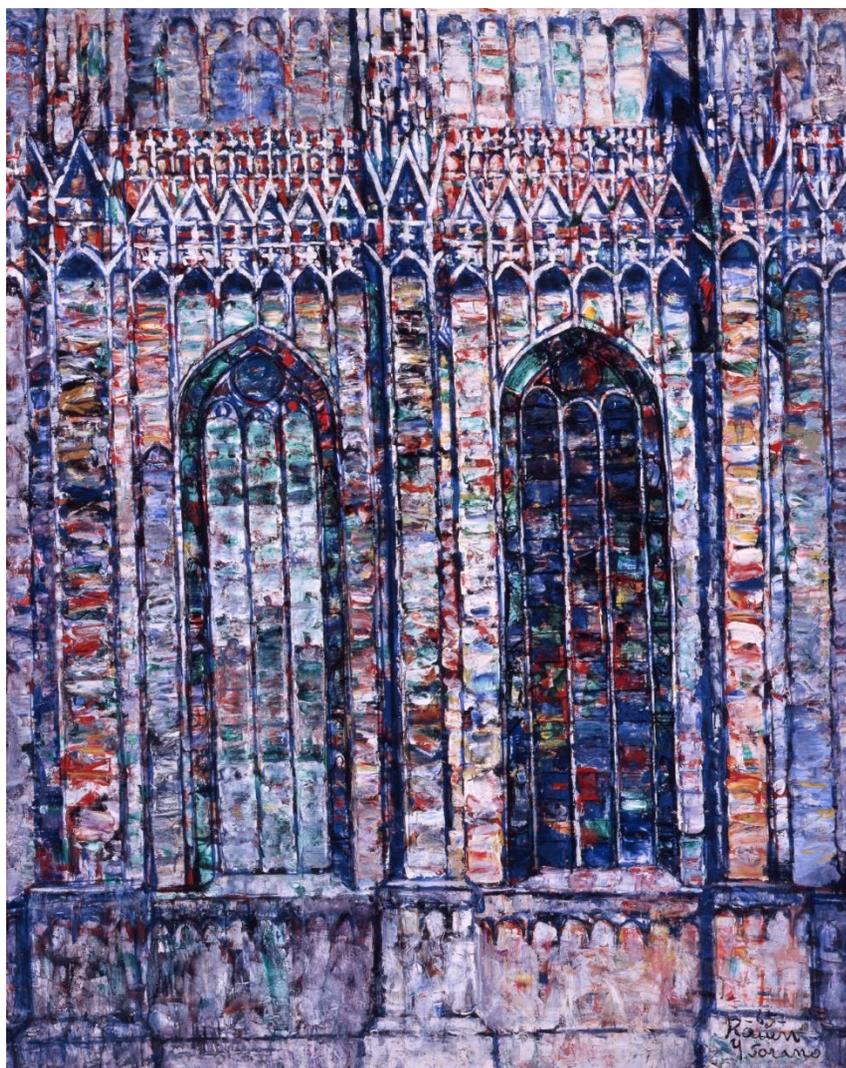


呉市立美術館平成三十年度コレクション展目

郷土の作家たち

呉美術の宝物に出会える展覧会



空野八百蔵《聖堂》1965年、油彩・画布、162.3×130.5 cm



船田玉樹《梅》(右隻) 制作年不詳、紙本彩色・六曲一双、右隻 172.0×377.1 cm

2019年1月6日(日)～3月24日(日)

開館時間：10:00～17:00 (入館は16:30まで) 休館日：火曜日

入館料：一般 300円(240円)・高校生 180円(140円)・小中生 120円(90円)

※()内は20名以上の団体料金。広島中央地域連携中枢都市圏(呉市、竹原市、東広島市、江田島市、海田町、熊野町、坂町、大崎上島町)に在住の高校生以下、呉市在住の70歳以上の方、はたちのパスポート、障害者手帳等をお持ちの方は無料(要証明書)。くれフレンドリー(友の会)会員証をお持ちの方は団体料金でご入館いただけます。

呉市立美術館

KURE MUNICIPAL MUSEUM OF ART

〒737-0028 呉市幸町入船山公園内
Tel (0823) 25-2007 Fax (0823) 24-9813
<http://www.kure-bi.jp/> kure-bi@abeam.ocn.ne.jp

本展では、「呉に生まれる」「呉で活動」「呉を描く」など当館が所蔵する「呉」ゆかりの43作家の作品により、戦前・戦後から現代にかけての呉美術の諸相を紹介します。

南画の伝統を近代に伝えた手島呉東（1862～1936）、戦前日本洋画界の巨匠・南薫造（1883～1950）を筆頭に、朝井清（版画、1901～1968）、長田健雄（水彩画、1901～1940）、宇根元馨（油彩画、1904～1970）らが中心となって戦前における呉美術の基礎が築かれ、藤川九郎（水彩画、1900～1991）、生田正雄（水彩画、1907～1999）、空野八百蔵（油彩画、1916～1993）、船田玉樹（日本画、1912～1991）らが加わって呉美術協会が設立されるなど戦後美術の振興が図られました。その後、現代にかけては、抽象画に屹立する作風を打ち立てた岡部繁夫（1912～1969）、木版画と木彫に独自の境地を切り開いた水船六洲（1912～1980）、数奇な運命を辿ってメルヘン画家として大成したミネ・クレイン（1917～1992）など、そして、野呂山芸術村に集まった日本及び世界各地の画家たちが、多彩な花を咲かせました。さながら日本近代美術史の縮図のようなバラエティに富んだ技法・素材・表現法による密度の高い作品群、そして呉ならではのテーマをお楽しみいただけます。

また、本展では、今年度当館で高校生キュレーターとして活動した高校生たちが推奨する作品を交えて展示します。ご来館の皆さまには、美術を通してあらためて郷土・呉に向き合っていただきながら、高校生たちとともに呉美術の宝物を見つけただけければ幸いです。

関連イベント

※ 申込不要、参加費無料

（ただし展示会のチケットが必要です。）

■ギャラリートーク

展示の見所を学芸員と高校生キュレーターが解説します。

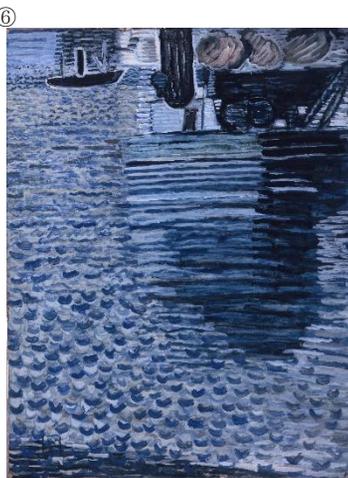
日時：1月26日（土）、2月9日（土） 各日 14：00～

■アートオリエンテーリング

小学生を対象にしたクイズ形式のワークシートを受付で配布します。ご家族で楽しく鑑賞してみませんか。

■アンケート“見つけよう！ 呉美術の宝物”

ご来館の皆さまの“一押し”作品をお知らせください。感動と感想を共有しましょう。



① 宇根元馨《葡萄》1940年、油彩・画布、159.4×129.0 cm

② 朝井清《大阪住吉祭》1961年、木版・紙、131.5×91.1 cm

③ ミネ・クレイン《夕焼け》1982年、油彩・画布、178.4×203.5 cm

④ 池田栄廣《名曲の夕べ》1976年、紙本彩色、242.2×178.7 cm

⑤ 手島呉東《山水》1932年、紙本墨画、61.0×179.1 cm

⑥ 藤川九郎《港》1954年、水彩・紙、99.9×76.5 cm

⑦ 岡部繁夫《作品"UXY"》1967年、油彩・画布、182.5×222.7 cm

⑧ 迫幸一《内海風物詩》1967年、銀塩写真、15.6×24.4 cm

⑨ 林健《女二人》1965年、木彫、173.8×64.6×41.1 cm

※ 都合により展示作品が変更になる場合があります。

